

川崎医科大学 英語

2019年1月27日実施

I 文法4択

問1 ㉔ ~inform you of … 「～があなたに…を伝える」

訳：「彼らの返事をお伝えします。」

“inform A of B” 「AにBを伝える，知らせる」

問2 ㉑ The effect of ~ on … 「～の…に対する影響」

訳：「暴力的なテレビ番組が子供に与える影響は，長い間議論されてきた。」

“the effect of A on B” 「AがBに及ぼす影響」

問3 ㉒ at your disposal 「あなたの自由に」

訳：「私の本はいつでも自由に利用していいですよ。」

“at one’s disposal” 「～の自由に」

問4 ㉑ a project team that involves collaborating with ~ 「～との協力を必要とするプロジェクトチーム」

訳：「彼女はいろいろな国の人との協力を必要とするプロジェクトチームに参加しています。」

involve は目的語に動名詞をとる。また “collaborate with ~” で「～と協力する」

問5 ㉑ ~were made to fill in … 「～は…に記入をさせられた」

訳：「志願者達は面接に先立って用紙に記入させられた。」

make は “make O 原形 V” の形をとるが，受動態になると “be made to V” になる。また “fill in ~” で「～に（必要事項を）書きこむ」

問6 ㉑ Had it not been for your advice, ~ 「もしあなたの忠告がなかったならば，～」

訳：「あなたの忠告がなければ，私はその運動を成功させることが出来なかつただろう。」

主節の形から仮定法過去完了であると判断する。仮定法は if を省略すると倒置が起こる。

問7 ㉔ It is surprising that she should get angry about ~ 「彼女が～について怒るなんて驚きだ」

訳：「彼女がその問題について怒るなんて驚きだ。」

驚き，怒りなどの感情を表す表現では that 節内に should を入れて主観的感情を表すことができる。

問8 ㉒ ~never dreamed of there being … 「～は…があるなんて思いもしなかった」

訳：「この地域には，見るべき場所がこんなにたくさんあるなんて思いもしなかった。」

前置詞の目的語には名詞，もしくは動名詞が来る。being や having been だと意味上の主語が“I”になってしまうので意味が通らない。there をいれると there is 構文となり文意が通る。

問9 ㉑ There is no returning to ~ 「～に戻ることは不可能だ」

訳：「過去に戻ることは不可能だ。」

“there is no Ving ~” 「～できない，不可能だ」

- 問 10 ㉓ ~ won three games in a row 「～は 3 試合連続で勝った」
 訳：「ケイコは 3 試合連続で勝った。」
 “in a row” 「連続で」 “in succession” も同じ意味になる。“in series” 「順番に，連結して」
- 問 11 ㉔ ~ was lost in reading 「～は読書にふけていた」
 訳：「ジャッキーは読書にふけていたので，電話が鳴る音に気付かなかった。」
 “be lost in ~” 「～に没頭する，夢中になる，ふける」
- 問 12 ㉕ ~ waited for the other party to break the ice 「～は相手方が話の口火を切るのを待った」
 訳：「最後の会議では，相手方が話の口火を切るのを待った。」
 “break the ice” 「緊張をほぐす，座を打ち解けさせる，（会話，質問などの）口火を切る」

II 語句整序

- 問 13 The doctor was (relieved) (to) (see) (13how) (much) (better) (the patient) (was).
 [better / see / much / was / to / the patient / how / relieved]
 「その医者患者がどれだけよくなったのかを見て安堵した。」
- 問 14 It is not (you) (but) (I) (もしくは I but you) (14who) (should) (be) (blamed).
 [I / blamed / but / you / should / be / who]
 「責められるべきなのは君ではなく僕のほうなんだ。」
- 問 15 The object of his admiration shows (the kind) (of) (person) (15he) (would) (like) (to) (be).
 [the kind / like / be / he / person / of / to / would]
 「彼がほめるものを見れば彼がどんな人になりたがっているのかが分かる。」
- 問 16 Knowing (when) (to) (16rest) (is) (a tough question) (to) (answer) even for an experienced athlete.
 [answer / to / is / when / a tough question / rest / to]
 「いつ休むのかを知るとは，経験のあるアスリートにとってさえ答えるのが難しい問題である。」
- 問 17 (The findings) (presented) (in) (this) (research) (17were) (obtained) from studies that were supported by the Ministry of Education.
 [presented / research / in / obtained / the findings / this / were]
 「この研究で提示された調査結果は，教育省によって支持された研究から得られたものである。」

III 空所補充

- 問 18 ㉖ In listening to our terminally ill patients we were always impressed that even the most accepting, the most realistic patients left the possibility (open) for some cure, for the discovery of a new drug or the “last-minute success in a research project.”
 leave O C 「O を C のままにしておく」ここでは形容詞 open を入れる。opening も形容詞だが，「初めの」の意味となるためここでは×。
 「終末期の患者の話を知るとき，最も自分の未来を受け入れていて，最も現実的な患者でさえ，ある治療や新薬の発見，あるいは「土壇場での研究の成功」に対して可能性が開かれたままであるということに，私たちはいつも感銘を受けていた。」

問 19 ㉑ ~that they will wake up one morning to be told that the doctors are ready to try out a new drug which seems (promising), ~

promising 「見込みのある」

「彼らはある朝目が覚めて、医者に見込みのありそうな新しい薬を試してみる準備ができていると言われる (という望み)」

問 20 ㉒ (No matter what) we call it, we found that all our patients maintained a little bit of it and were nourished by it in especially difficult times.

call O C 「O を C と呼ぶ」

「私たちがそのような望みをなんと呼ぼうと、私たちの患者は皆その望みを少しは持ち続けており、特に苦しい時にはその望みによって力をもらっているということに私たちは気が付いていた。」

問 21 ㉓ This does not mean that doctors have to tell them (a lie);

tell a lie 「嘘をつく」

「このことは医者が彼に嘘を言っているということを意味しない。」

問 22 ㉔ While we maintained hope with them, we did not reinforce hope when they finally gave it up, not with despair but in a stage of final (acceptance).

not A but B の相関表現に注目する。

「私たちは患者とともに希望を持ち続けたが、一方で絶望してではなく、最終的に (自らの死を) 受容する段階に至り患者が最終的に望むことをやめてしまうと、私たちは望むことを促さなかった。」

IV 長文内容一致

問 23 In the great joy of having a child, what did the author consider?

㉑ The sustainability of our resource

第2段落最終文に「自分の娘が今の自分の年齢になる時、地球上を約100億人が歩いているだろう」とあり、第4段落最終文には、「この世界は100億人の人々が繁栄するのに十分なほど、大きく、豊かなのだろうか」とあるので「私たちの資源の持続可能性」が適当。

問 24 What does “that” refer to?

㉒ Having a large population in the near future

thatが含まれるHow is that going to work? は「どうすれば、この状況が上手くいくのだろうか?」この that は第2段落最終文の「娘が自分の年齢になった時、地球上を約100億人が歩いているだろう」ということを受けているので、「近い将来、人口が膨大になること」が適当。

問 25 Among the many changes from the 1970's, which one does the writer find the most significant?

㉓ The change that food was made more available worldwide

第5段落最終文と第6段落第1文によれば、筆者は長いこと「科学と技術における発見」が、今日における最重要の発展だと思っていた。しかし、第6段落第3文によれば、その後、「それが何をもたらしたか」の方が重要だと気がついた。第6段落第4-5文に、1970年代は世界の約1/4の人々が飢餓に苦しんでいたが、今日では、その割合は1/10である、とあるので、「食料が世界中でより調達可能になったという変化」が適当。

問26 What does “Nothing like this surge of well-being has occurred before” imply?

- © It implies that science and technology significantly increased affluence on a global scale.

問25とも関連するが、下線部㉔の「この向上」(this surge)は、前文の第6段落第7文によれば、科学と技術がアジア、ラテンアメリカ、アフリカの大勢の人々にもたらした生活水準の上昇を指すので、「このことは、科学と技術により、世界規模で豊かさが大幅に増大したことを暗示している」が適当。

問27 How can factory workers in Pennsylvania and farmers in Pakistan be characterized?

- ㉑ They become better off than before.

第7段落第3文に、「しかし彼らも、過去の水準では、豊かな人々なのである」とあるので「彼らの暮らし向きは以前より良くなっている」が適当。

問28 What is the expected trend of the world’s population after 2050?

- ㉒ It will become relatively stable and remain close to 10 billion.

第8段落第2-3文に、「人口学者の大半は、2050年頃には、世界人口は100億人かそれを若干下回るほどの数に到達するだろうと考えている。この頃には、人間の人口は横ばいになり始めるかもしれない」とあるので、「人口は比較的安定し、100億人付近を維持するようになるだろう」が適当。

問29 What is the author’s concern about life in 2050?

- ㉓ The environment might not be able to meet the demands of people.

第9段落第3文に「私の子供の世代が直面するかもしれない根本的な問い」として「どのようにして地球規模の危機に陥らずに次の世紀を生き抜くか」とあるので、「環境は人々の需要を満たすことができないかもしれない」が適当。

問30 What did Vogt believe about the environment?

- ㉔ It will be destroyed if we continue to do the same thing.

第11段落第2文には、「人類が消費を徹底して減らさないかぎり、増大する人口と食欲により、地球の生態系は転覆するだろう」とあるので、「私たちが同じことをし続けるかぎり、環境は破壊されるだろう」が適当。

問31 What is, Borlaug’s view on science and technology?

- ㉕ World hunger can be reduced and environmental issues can be tackled with them.

第12段落第1文に見られる Borlaug の主張によれば、「科学と技術は、適切に用いられるなら、私たちが窮地を脱する方法を生み出す助けとなる」とあるので、「科学と技術により、世界の飢餓が減少し、環境問題に取り組むことが可能になる」が適当。

問32 What was the significance of the Green Revolution?

- ㉖ A bigger harvest for more consumption

第12段落第2文に見られる「緑の革命」(Green Revolution)の説明には「緑の革命は、多収性の穀物種と農耕学的技術が組み合わさったものであり、このことによって、穀物の収穫量は世界規模で増大し、大勢の人々が餓死から救われた」とあるので、「さらなる消費を目的としたさらなる収穫」が適当。

問33 How can the perspective of Borlaug be regarded as that of a wizard?

- ① Advanced knowledge could be expected to perform near miracles for the benefit of human life.

第14段落第1文に、「魔法使いは技術的解決策を披露する」とあるので「進歩した技術には、人間の生活のために奇跡に近い働きをすることを期待することができる」が適当。

問34 How can the perspective of Vogt be regarded as that of a prophet?

- ② He seeks reflection on the past abuses and predicts serious consequences.

第14段落第1文に、「予言者は、私たちの配慮の無さの帰結を強く非難する」とある。この「配慮の無さ」は人間が過去行った環境破壊を指し、その「帰結」は、環境破壊が将来的にもたらしうる危機的状況を意味すると考えられるので「彼は、過去の〔環境〕搾取を省みることを求め、〔将来起こりうる〕深刻な結果を予想する」が適当。

問35 What does the author state about the views of Vogt and Borlaug?

- ③ Their perspectives have remained far apart even though they approached the same concerns.

第15段落第1-3文によれば、VogtとBorlaugの二人は、最初の数十年は同様の軌道を動いていたが、1940年代半ばに一度会い、意見が不一致に終わった後は、二度と言葉を交わさなかったとあるので「彼らは同一の関心事に取り組んでいたにもかかわらず、彼らの考え方は、かけ離れたままであった」が適当。

講評

- I [文法4択] (標準) 前置詞・準動詞・慣用表現を中心とした出題。
II [語句整序] (標準) 全文は書けなくても正答にたどり着けるものが多い。
III [長文空所補充] (標準) 取り組みやすい出題。昨年度の段落整序に比べて易化。
IV [長文内容一致] (標準) 「人口増加と環境の持続可能性」に関する英文。昨年度と比べると内容、設問ともに取り組みやすい。

大問数は変わらないが、大問3で昨年度出題された段落整序が無くなり、元の長文空所補充問題に戻った。他の大問も取り組みやすいものが多い。目標は65%